

ことぶき共同診療所だより

第 47 号

2019 年 7 月 19 日発行

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 1・2F
電話とファックス 045-651-2305 (診療所) 045-305-4322 (鍼灸院・資料室)

E-Mail info@kyoudouclinic.com

http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目次

- 人間関係って濃ければよいというものではないらしい
..... 鈴木 伸 ②
- デイケアなう..... 蒔田 宏子・石倉 綾子、デイケアメンバー ④
- “診療室から” (43) - どん底の通過点 - 熊倉 陽介 ⑥
- 寿町関係資料室コレクション..... 松本 一郎 ⑦
- 【8】小寺篤『よこはまの橋・人・風土』-
- 職員自己紹介..... 蒔田 宏子・水地 英子 ⑨
- 診療所日誌 ('18年11月~'19年6月)..... 矢島 雅子 ⑩
- 寿町地域ニュース・あらかると ('18年12月~'19年5月) .. 松本 一郎 ⑪
- 共同診療所・鍼灸院ガイド ⑫



人間関係って濃ければよい
というものではないらしい

診療所長の鈴木です。2019年も早半分が経過いたしました。雨が降ったかと思えば、暑い日が続き、体調を崩される患者さんが多い今日この頃ですが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか。

どんなに医学が進んだところで、病気の予防といえば十分な睡眠、栄養です。タピオカミルクティーや「パンケーキたべたい」とパンケーキばかり食べていては（そんな人は多分いないでしょうが）、栄養に偏りがでてしまいます。そして欠かせないのが適切な運動。週に数回は「やってね」などと患者さんに言ってはいるのですが、いざ自分がやるとなると意外に実行は難しいものですね。「まず隗(かい)よりはじめよ」です。

閑話休題。当院では以前から「DOTs」というものを行っております。どこぞのバンドの名前のようでもあります。れっきと

した医学用語です。もともと途上国の結核治療で使われた用語です。昔は不治の病であった結核に特效薬ができ、治療ができるようになりました。そこで、途上国の結核を治療しようと先進国の医者が勇んで出かけていったのですが、診断して特效薬を処方しても治療がうまくいかないケースが多々あったようです。

さてみなさんはその原因はなんだと思いますか？ 実は薬を処方されても指示通りに飲めないことが原因だったのです。せっかくの特效薬も飲めなければ効果もあがりようがありません。そこでどうしたか？ 「スタッフ

の目の前で確実に薬をのんでもらう」という地道な方法が登場しました。これが「DOTs」です。これにより結核治療は各段に治癒率が向上したのです。

服薬がきちんとできないということは実



は精神科ではかなり頻繁にみられる問題です。単純に飲み忘れてしまうのはもちろん、記憶力が低下して薬を何度ものんでしまうとか、薬への依存があり何かつらいことがあると衝動的に薬をがぶ飲みしてしまうとかその原因は多様です。当院では何らかの理由で服薬が自力では困難であり、訪問看護などの社会資源を利用しても困難な場合は「DOTs」を導入しています。

とりあえず服薬管理をきちんとということ導入された DOTs ですが、長年やっていくと服薬を確実にする以上の効果があることに気が付きました。当初はなんとなく硬かった患者さんの表情が毎日会っていると徐々に柔らかくなっていくのです。体調を確認して薬を飲むだけですから、挨拶と数十



秒程度の会話程度をかわす程度なのでなぜだろうと不思議に思っておりました。しかし、その後、さまざまな知見からその謎がわかりました。

当初私は患者さんに安心を与えたり、治療的な効果がでるためには、濃密で長時間なかかわりが必要だと考えていました。し

かしそれは間違いであることがわかりました。自殺の少ない地域の研究をした岡檀さんの『生き心地のよい町』によれば、自殺の少ない地域の人間関係について様々な調査をしているのですが、その結果わかったのは、自殺の少ない地域においては、日常的に協力し合うような濃厚なつきあい方をする人は少なく、あいさつや立ち話程度のつきあいの方が圧倒的なのです（逆に自殺が多い町では濃厚なつきあい方が多いのです）。ざっくりいうと濃密すぎて息苦しい人間関係はむしろ害になり、挨拶するくらいのゆるい、風通しのよい関係のほうが人間の精神的な健康にはよいということ

的健康的な健康にはよいということですから（もちろんそこにはお互いを尊重するという気持ちがあれば尚よしです）。

そのことを知って以来、この

「DOTs」という毎日数十秒のふれあいはそれなりの精神療法なのだと思いき、楽しくやっております。そして、わずかに数十秒ですが少しでも楽しい気持ちになっていただけるような言葉かけを考えるのも精神療法だと思いつつ、がんばっている今日この頃です。

(鈴木 伸)

デイケアなう

ことぶき共同診療所にデイケアが開設されてから20年になりました。この間、メンバーさんやスタッフの顔ぶれは変わりましたが、毎日みんなで食事を作って食べ、いろいろなプログラムを行っています。

そこで今回は、デイケアについて、メンバーさんにインタビューしてみました。皆さんの正直で楽しく嬉しい声が聞けましたので、紹介します。(蒔田宏子・石倉綾子)

Q. 好きなプログラムはなんですか？

お風呂です。もともとお風呂が好きだから。えびす湯によく行っているけど、ふれーゆが復活してくれたらもっとありがたい。(Sさん)

ヨガ。体を動かすとスッキリして、リラックスできるから。あと船崎さんの造形。皆で色々な物を作ったりするのが楽しい。(Uさん)

音楽鑑賞、散歩。(Aさん)

書道と造形です。書道は前から習っているから。絵を描くのも好きです。(Nさん)



お茶です。お茶の教室のようにここで参加できるのが贅沢だなと思います。あ

とは散歩です。同じメンバーと一緒に行くのが嬉しいです。(Mさん)

特にないけど稲子に行くのが一番いい。(Fさん)

旅行が好きです。稲子で野菜を収穫したり、それを食べたりするのが楽しい。(Iさん)

Q. 苦手なプログラムはありますか？

特にないです。(Sさん、Mさん、Tさん)

造形で絵を描くこと。絵を描くのは苦手なので…。(Uさん、Iさん)

表現とかプレイバックシアター。前に出てやるが苦手なので…。(Aさん)

ヨガ。もっとテキパキ体を動かすような運動が良い。(Fさん)

Q. デイケアに来たくない時はありますか？ そういう時はどうしていますか。

体がだるい時。体調が悪いとき。(Sさん、Iさん)

寝不足気味の日。でも部屋が近いので来られます。(Mさん)

劇をやらされる時が嫌。嫌だけどそれで来れない時はない。(Fさん)

あるけど…そういう時も来ている。(Aさん)

Q. デイケアで楽しいのはどんな時ですか？

みんなで出かける時。外に出るプログラムが好き。(Sさん)

皆と一緒にいておしゃべりしたり、作業するのが楽しいです。一人でいるとフラッシュバックが出てしまい苦しいけど、皆といると出ないのでいいです。(Aさん)

船崎さんにハーモニカの吹き方を教えてもらって、特に技を覚えて上手く吹けたときは楽しかったです。(Aさん)

今までやったことのなかったことがやれるのが新鮮で嬉しい。不安なことや鬱っぽいこともここに来ると忘れられる。(Mさん)

自由に過ごせること、職員とのコミュニケーション、冗談を言ったり交流が楽しい。(Iさん)

Q. デイケアで困っていることはありますか？

ないです。(Uさん)

自分が何度も同じ質問を繰り返してしまうこと。相手を不快な気分させているのではないかと心配しています。(Aさん)

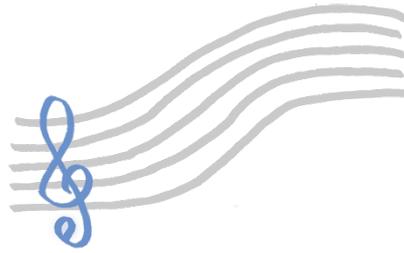
人の名前が出てこなくなったこと。歳かな～。(Nさん)

Q. デイケアを利用する前と今とで、自分が変わったと思うことはありますか？

前はだらしない生活をしていた。今は楽しい。ご飯が美味しいし、タバコも吸えるし、プログラムでいろいろ教えてもらえるのがいいです。(Uさん)

デイケアは居場所みたいな感じ。デイケアがあることで1日の流れが決まっている感じ。目的を持ってきているので、何となく1日を過ごさなくて済むのが良い。(Nさん)

ここに来ていなかったら、家族のことや自



分のことでパンクしていたと思う。デイケアにはいろいろなキャラクターの人がいるのが良い。いろいろな人が受け入れられる雰囲気があるから居られている。(Mさん)

ここは学校のようにとらえている。ここに来ていろんなことを勉強することができる。皆との交流も勉強になる。(Iさん)

Q. 要望はありますか？

お出かけプログラムを増やしてもらえたら嬉しいです。(Sさん)

またふれ一ゆに行きたい。(Uさん)

音楽鑑賞と散歩を増やしてほしい。(Aさん)

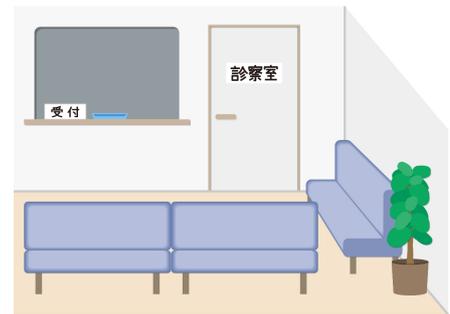
軽い面談でもよいので、一人ひとりの状況を聞いてもらえたら良いと思います。自分から言えない人が多いので、職員の方から聞いてもらえたら不満や困ったことの話が出て来ると思う。(Nさん)

悪い組織になってほしくない。新しい人が来ても、時間がかかっても「来てよかった」と思えるような所であって欲しい。(Mさん)

もうちょっと時間を早めて欲しい。夕方をもっと長くしてほしい。帰っても16時ではやることがない。あと、お風呂を増やしてほしい。特にふれ一ゆに行きたい。また、たまに外に出るプログラムを増やしてほしい。(Fさん)

今までと違って大黒柱がいない状態だと思う。白紙の状態から新しい職員で知恵を出し合って、次のステップに進んでいかれるようなデイケアを作って欲しい。(Iさん)

“診療室から” (43)



どん底の通過点

ことぶき町に勤めはじめて9年目になりました。初期研修医を終えて、精神科医になったと同時にことぶきで週に1日働きはじめたので、自分の精神科医歴と「ことぶき歴」はちょうど同じです。ここで多くの人と話し、医者として、人として、多くのことを教えてもらっています。テレビを見なくても、それどころか直接聴かなくても、ベイスターズが最近勝っているのか負けているのか、外来にくるおっちゃん達の醸し出す空気だけでわかるようになってきました。

少なくない人が亡くなりました。酒を飲まなくなって、ああ、こういうふうには人は回復していくのだなあ、と、教えてもらっているように思っていた人が、癌になって早々に亡くなっていくことも何度かありました。山下公園で、遺体で見つかった人もいました。最近見かけないなあと思っていたら、どうやら自殺したらしい連絡を受けた人もいました。

何も言わずいなくなっていく人もいました。怒って去っていった人もいました。おそらく、自分自身でも気がつかないうちにこの人を傷付けたから立ち去っていったのではないかと、反省するようなこともありました。

長いお勤めに出た人もいました。路上生活に戻ってしまった人もいました。

長い入院から帰って来た人もいました。

なんとかかんとか生きている人も、たくさんいます。

この診療所の外来にはじめて訪れるということは、ほとんどの人にとって、人生の中での幸せな出来事ではないだろうと思います。堰を切ったように過去の壮絶なつらい体験を話す人もいれば、何も語れない人もいます。

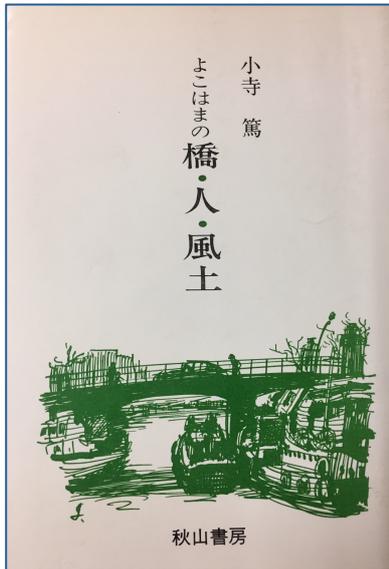
この街の入り口にある診察室にたどり着いて、抱えた不幸のほんの一部を口にするこの瞬間が、この人にとっての人生のどん底であって欲しいといつも願います。これ以上に失うことができるものが何一つ見つからないのだから、せめて今日この瞬間よりは、この人の今後の暮らしがおだやかなものであって欲しいと思います。

立ち去り、あるいは、亡くなっていった人達にとっても、この診察室に来ていた時がどん底であるようにと祈ります。

(熊倉 陽介)

寿町関係資料室コレクション

【8】小寺篤『よこはまの橋・人・風土』（秋山書房、1983年8月、全177頁）



今回紹介する本の著者は1912年生まれで、1973年に『横浜の橋』、1976年に『横浜の坂』を刊行し、1976年から1983年まで横浜市の委嘱で河川調査に携わっている。

本書では、横浜にある橋を、街道の橋、商人の橋、工業の橋、開拓の橋、開化の橋、歓楽の橋、信仰の橋、伝説の橋、鷹狩りの橋、心にかかる橋に振り分けて、計78橋が歴史・人・風土などの描写によってエッセイ風に紹介されている。

「まえがき」には、「橋をみていくと、橋辺の町や村の発展の状況がわかってくる。その地域の歴史を背景に橋の姿が浮き出している。橋は川という自然の形の上に構築された文化の産物である。それは川と人間とのかかわりあいから生れた。その過程は風土と密着している。橋の名をみただけでもそのことがわかる」とあり、橋に対する著者の基本的考え方が解るであろう。

さて、私の本書に対する着目点は、戦前の中村川流域の記述にある。中村川に架かる寿周辺の橋としては、地藏坂につながる「亀の橋」、派大岡川の埋め立てともに消滅した「吉浜橋」、そして以下紹介する「東橋」のことが描かれている。東橋は南区の中村町1丁目、玉泉寺のすぐ近くに架かっている。川向こうは万世町、三吉町、千歳町である。ちなみに、東橋から三吉橋辺りには、現在も簡易宿泊所が10数軒営業している（寿地区のエリア外となる）。

著者は、横浜の発展（貿易、都市開発）に必要な労働者をプールする地域として中村川流域を位置づける（中村川流域の地域性については本紙38号と42号でも取り上げたことがあり参照してほしい）。一般に戦前横浜の日雇労働者の記述は少なく貴重な指摘である。

横浜開港以来の都市建設の途上において、その繁栄に浴そうとして多数の人間が流れこみ、結局かれらは土工、人足などの仕事にありついて、やがてその後の貿易の発展につれて、港湾をめぐる仕事をささえる労力にくみこまれることになる。それらの労働者たちを収容する土方部屋が石川の大丸谷を本拠として、それにつながる小部屋が中村の八幡谷戸附近から三吉町、松影町へと散在していた。およそ中村川流域である。（開化の橋「東橋」 同書96頁）

引用分中の大丸谷（おおまるだに）は、JR石川町南口近く、石川町駅前郵便局辺りから始まる大丸谷坂周辺の地域である（現在の石川町1丁目と2丁目の境目あたり）。「土方部屋」（人夫部屋）は親方が労働者を囲い込む制度である。横浜では太田町一丁目にあった「要蔵部屋」（横浜貿易新報社編『横浜開港側面史』1909年、124-125頁）が有名であるが、本書では（規模は不明だが）大丸谷にも本拠があったという。この湾曲の坂は山手地域に繋がる。坂の途中には大丸谷震災地藏尊があり、ここに掲げてある「由来碑」には関東大震災時の被災状況が記されている（松本が転記）。

一九二三年（大正一二年）九月一日午前十一時五八分関東全域にわたって大被害をもたらした関東大地震は震源地を相模湾の北西隅あたりの海底と推測され、北海道、沖縄にいたる地域でも人体に感じ、全世界の地震計に記録をとらめ、死者九九、三三一名。負傷者一〇三、七三三名、行方不明四三、四七六名の大地震であった。当時此の附近一帯は各所より発生した大火災により一面火の海となり避難民は高台（十三番）の安全地帯を求めて大丸谷道路上を山に向かって殺到した。（昭和四十八年九月一日 石川町壱丁目町内会）

大丸谷坂周辺は、中村川沿岸から山側に吹き上がる火炎によって灼熱の地獄と化した。避難民約300名のうち27名が逃れられず犠牲者となった。中村川沿いは木造住宅が密集していたと考えられ、倒壊、火災によって一帯が壊滅的状態となった。

また、本書では、下記の通り、「神奈川揮発物貯庫」(中村町3丁目の現・県立埋蔵文化財センター周辺)についての貴重な記述がある(明治時代の地図を確認したが、この貯庫は広大な敷地を持っていた)。さらに、後に三菱に吸収合併され、三菱重工業横浜造船所となる横浜船渠(今のみなとみらいドックヤードガーデン周辺)が、いわゆる「かんかん虫」など多くの労働者を必要とし、東橋から水運を使って通勤させていたことも書いてある。どちらも、日雇労働者(自由労働者)を多く必要としていたのだろう。

明治八年から大正十二年にかけて、中村道場の神奈川揮発物貯庫には、入ってくる全ての石油製品が保管された。それらは舢舨に積みかえられて堀川からさかのぼり、道場橋際の専用河岸でおろされた。貯庫の周辺には専属の回漕屋が並んで、多くの運搬人夫をかかえていた。その人夫たちに貯庫にはたらく人夫を加えて、かれらの住む家が周囲に建ちはじめ、中村の田園景観に変化がおこる。そのはてには、港湾ではたらく人夫たち、地方から出てきた労働者たちがここを中心に生活をいとむようになる。かれらは多くは不安定な条件のもとにある自由労働者であって、船舶修理のかんかん虫とよばれた連中が多かったが、かれらは東橋のほとりにあった船着場から出る船で作業場まで運ばれていった。

また一方、根岸方面、あるいは打越や唐沢方面から下ってくる通勤者たちは、猿坂をおりて中村川にかかり東橋か車橋をわたった。…それらの連中は、明治三十年に移働をはじめた横浜船渠会社に通う者が多く、その会社は横浜の発展とともに伸張して、景気のいい時には数千人の従業員をかかえていた。その上に、臨時の自由労働者を毎日雇い入れた。(開化の橋「東橋」 同書96-97頁)

「大正十二年」で区切られているのは、関東大震災の年だからだろう。揮発物貯庫は震災時に火災になり、火になった重油は流れ出し四辺一面火の海となり、午後には三吉橋と道場橋は重油の火で燃え落ちた。揮発物貯庫の焼跡には関西諸府県寄贈のバラック数十棟が建てられ、罹災者の多くが生活し、バラック村が形成された(南区の歴史発刊実行委員会『南区の歴史』1976年、159-160頁)。

中村川周辺には土木労働者、造船労働者、石油関係労働者が住み、「この一帯は汗と油のむんむんする生活の場」であったそうである。他にも、絹スカーフの内職者、お茶の焙煎工場の労働者が住んでいたという。

こうしたことから、本書によれば東橋はかつて「土方橋」と称されていたという。著者は、「文明開化の華やかな世界を、下から築いてささえたのは、この一帯に住む人たちの労力であった。土方橋の名は、その人たちの功労をたたえこそすれ、軽蔑のしるしになるわけがない。土方橋はその功績の記念碑であったのだ」と結んでいる。

中村川流域はもともと寒村であったが吉田新田の開発が始まり、開港以降は貿易、造船業、京浜工業地帯をはじめ日本の資本主義を支え続けた。そのため国内外から労働者が吸引され、移住し形成されていった。本書の東橋の記述から、中村川の水運、神奈川揮発物貯庫や造船業との関係、港との距離などが形成の背景にあったことが分かる。国外からは1910年の韓国併合以降、次第に朝鮮人労働者が移り住んでいった(1923年時点で神奈川県内に3,645人)。関東大震災直後には、中村川流域で自警団などによる虐殺事件が起きている。

中村川流域の本書の記述において出典や参考文献の記載が欲しかったところであるが、今後私としても歴史的資料を探し、裏付けを図っていきたい。

(寿町関係資料室 松本一郎)



職員自己紹介



デイケア職員、看護師の退職にともない、新しい職員を迎えました。

蒔田 宏子

初めまして。蒔田宏子です。

4月半ばからデイケアで働いています。子どもの頃の入院体験をきっかけに「白衣の天使」に憧れた私は、迷った末に精神病院で看護師デビューを果たしました。希望に燃えて就職した職場には呉秀三先生の「この国に生まれたるの不幸」さながらの現実があり愕然としたものでした。当時は、入院治療によって落ち着いた患者さんが退院しても行く場所や、使えるサービスがほとんどありませんでした。10年間病院で働いた後は、精神障害者の生活訓練施設、就労支援、精神病院の相談室、グループホーム、就労継続B型、就労移行支援など、いろいろな場所で精神保健福祉士、サービス管理責任者として仕事をしてきました。この間、障害者団体、家族、支援機関等の運動も力になり、貧困だった日本の医療行政、福祉施策も自立支援法、障害者総合支援法ができるなど、不十分ながら変わってきたと感じています。

寿に足を踏み入れたのは今から15年前、某クリニックで依存症の方の訪問看護をしていた時が始まりでした。その頃、共同診療所の存在は知っていたものの、ほとんど接点がなく、その後はこの地域とつかず離れずの距離感で来ました。そして今回ついに、こと共の一員になってしまいました。

いろいろな施設で働いた経験や、人生を長く過ごしているという実績はありますが、この仕

事は「正解」がなく、何年やっても自分の無力さを感じる人が多いです。若い頃は、病気や障害のある人を助けてあげたいなどと思ったものですが、いろいろな体験を経て、「その人の人生はその人のもの」「ひとりひとりの望みに寄り添い、今と一緒に生きられたらいいな…」と考えています。



水地 英子

寿町と出会ったきっかけは、日本経済が先細り、貧困という言葉があちこちでささやかれていた頃、所属していたNPO法人が地域支援に目を向け始めたことでした。寿町の空間は地方出の私にとって強烈で、既視感を粉砕するのに十分なインパクトがありました。装飾のない個性的な住民の方達に接して驚いたり、笑ったりしながら、今では妙な心地良さを感じています。また支援者の方達の純粋なひたむきさに魅力と感動を禁じえないことが多々あります。非日常感満載のこの町と人々にもっと早くめぐり合いたかったなアとっております。

このようにウダウダしながら回り道をして、こちらの職場にたどり着き、スタッフの皆様の温かい雰囲気と明るさに触れ、めげずに楽しく仕事をさせていただいております。どうぞよろしくお願い致します。

診療所日誌 '18年11月~'19年6月

2018年11月 見学や実習の11月でした。

- 1日 本当は精神科受診目的だが、自傷の処置依頼内容での紹介あり。最近増えているなあ。
7日 受診が途切れている方の所へ往診。“金儲けだ。帰れ〜”等々言われ、警察を呼ばれてしまう。
10日~11日 職員旅行（於：伊東）イルカとチューしました。
13日 群馬大学医学部の学生さん、一週間実習。
16日 神奈川病院の研修の方、日野病院の方、市大のワーカーさんと訪問者の多い日でした。
29日 アルク25周年。手作りのお赤飯頂く。
31日 アルク支援者交流会に参加させていただきました。懐かしい顔も拝見。

12月 師走です。世知辛いだけなら良いんだけど。

- 6日 夜、寿ナラティブの講演会
19日 明らかに酩酊状態の方。“のんでなーい。奈良漬け3キロ食べたんだ”と言い張る。
27日 切羽詰まっていますが、忘年会です。今年もご参加ありがとうございました。
31日 デイケア年越しの会。

1月 空気が張り詰めた年明けです

- 4日 朝、長く通われていたAさん、火事で亡くなる。訪問看護師さんもヘルパーさんもびっくり、がっかり。
10日 Tさん、久しぶりの訪問看護。
15日 インフルエンザ5名。ドヤ、施設単位で流行ってます。
19日 腹水の溜まったKさん。主治医の診察を受けやっと白旗をあげ、入院へ。
22日 近隣の医療機関は満床続きで、内科の入院先がない！

2月 今年も猛威、インフルエンザ。肺炎や意識障害など今年は重症化する人多し。

- 2日 デイケア、豆まき。
6日 Sさん、倒れて救急搬送されるが、診断は極度の栄養不良。通所している作業所で昼食を摂ることにする。
7日 退院したばかりのNさん。家では食事が摂れないと内服DOTSと共におかゆDOTS。
13日 インフルエンザ以来、腰が痛くて動けないというHさん宅往診。買い物には行けるんだけどな。
14日 もう一人のHさんも、腰痛で動けないからDOTSに來れずと。1ヵ月に一度は来る全てを拒絶する波。
21日 山梨県立大学の学生さんと先生9名、寿町の見学に。

3月 職員募集しました。事務の応募はなかなかないです。

- 15日 もう一人のHさんの方、注射しているのに血糖値が高いと怒って帰る。
トイレが詰まり水浸し。なんとパンパンになったオムツが詰まっていた。
20日 カジノ反対の会議開催される。
30日 待合室のトイレの改修工事。

4月 新しい職員を迎えました。

- 2日 DOTsの方、大量の南京虫発見。シャワーと着替えを行う。
16日 石倉さん、10年ぶりに復職。蒔田さん、勤務開始。デイケアUさん、退院。飲酒すると膝を曲げて歩いていますが、膝が伸びると意外と身長は高かった。
23日 看護師の水地さん、勤務開始。
25日 DOTsのAさん、全裸で譫妄状態の所を保護される。入院先をあたるが、10連休前でどこも空きがない。

30日 診療所開けました。割と静かです。

5月 もうやめて欲しい10連休。余波は続く続く。

1日 診療所開けました。DOTSの方、部屋で亡くなっている。診療所の外も禁煙にしました。

7日 世間の10連休明け。まあ、賑やかです。あちこちで大騒ぎ。

10日 熱烈ベ이스ターズファンのSさん、連敗中の為か全くDOTSに現れず。

16日 診療所内で犬やカラスの鳴き声やら鳥のさえずりやら…。芸達者な患者さんが多いです。外では本物も鳴き始め…。もはや何の声か分かりません。

6月 4月下旬以来の支給日の余波は続く続く。

1日～2日 デイケア稲子へ。アルコールの離

脱が心配な方がいたので、注射も持っていきました。

3日 5月中は支給日なく、久々の支給日で皆さん体調不良。飲み過ぎですよ。

5日 長野の信濃むつみ高校の学生さん9名見学に来る。

13日 Uさん、昨夜全裸でエレベータにゴミを投げ入れ、ホースで水をまきエレベータ故障の大騒ぎ。入院になりましたが、同じドヤの人はその様子を楽しそうに報告。心が広いです。

15日 デイケアTさん、セリンクロの効果むなく入院。

21日 譫妄状態のKさん、夜間は同じドヤの人が全力で見守りをしてくれる。

22日 昨日のKさん、入院決まる。

(矢島 雅子)

寿町地域ニュース・あらかると (2018年12月～2019年5月)

【国の貧困対策関係】＜厚労省関係＞「生活保護受給者に対する就労支援のあり方に関する研究会」報告書公表[3.6]／「生活保護基準の新たな検証手法の開発等に関する検討会」設置[3.18]／「地域共生社会に向けた包括的支援と多様な参加・協働の推進に関する検討会」設置[5.16]／改正子どもの貧困対策推進法成立[6.12] 【センター】横浜公共職業安定所横浜港労働出張所業務課が仮設よりセンター1階へ移転[3.25]／センターを管理する寿町勤労者福祉協会が横浜市寿町健康福祉交流協会となる[4.1]／寿町総合労働福祉会館が横浜市寿町健康福祉交流センター(市営住宅は寿町スカイハイツ)となりオープン[6.1] 【保育所】寿福祉センター保育所元の場所に戻り再オープン[3.23] 【簡易宿泊所】萬寿荘火災[18.12.21]／コムロード寿(扇町4-12-2・12-3)オープン[18.12月]／扇荘別館火災(2人死亡8人重軽傷)[1.4]／同栄ビル火災[4.30]／横浜市、市内中・南・神奈川各区の簡宿123施設の内103施設で消防法・等違反があったと公表[1.18]／G2ビルオープン(元大丸ビルの場所。松影町4-14-9,14-10)[1月] 【デイサービス】神崎ビル1階(旧さなぎ食堂)でデイサービス仁オープン[18.12] 【選挙】横浜市議選(中区)で立候補した森英夫氏(社民党公認)、5,958票で落選[6.7投票] 【警察】県、県内3政令市、県警が生活保護不正受給防止の会議(県警本部にて)[5.25]

※ 寿町に関する国・自治体の政策等も一部含まれます。(寿町関係資料室 松本 一郎)

医療法人 ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

◇診療科目 精神科 神経科 心療内科
内科 整形外科 鍼灸
診療所

	9時30分	12時	14時	17時	診療科目
月	休診				
火	鈴木伸・天田・越智		鈴木伸・天田・越智		精神科・神経科・心療内科・内科
水	土屋・越智・渡部		土屋・越智		精神科・神経科・心療内科・内科
木	鈴木伸・大脇・土屋・三橋(第3)		鈴木伸・大脇・土屋・三橋(第3)		精神科・神経科・心療内科・内科・整形外科
金	鈴木伸・土屋		土屋・阿部(第1・3・5 午後)		精神科・神経科・心療内科・内科
土	鈴木伸・熊倉・鈴木美奈子(月2回・エコー検査)・野本(月1回)		←受付11:30まで		精神科・神経科・心療内科・内科

※12-14 時はお昼休み

鍼灸院 (鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください)

	9時30分	13時	14時	受付16時30分まで
火	新井・鈴木		新井	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新井		新井	
金	新井		新井	

※13-14 時はお昼休み



○保険扱い

国民健康保険 各種社会保険 生活保護 障害者総合支援法 (その他、医療福祉相談も受け付けています)

○心理判定

○寿町関係資料室

寿町にまつわる資料収集、調査研究を行う「資料室」を併設しています。

◇所在地

〒231-0025 横浜市中区松影町 2-7-17
リバーハイツ石川町 1・2F

◇でんわとファックス

(045) 651-2305 (診療所)
(045) 305-4322 (鍼灸院)

◇e-mail info@kyoudouclinic.com

◇ホームページ

<http://kyoudouclinic.com>

2019年7月19日現在